

ふれあいネットワーク

やえせ 社協だより

第32号

編集・発行 **八重瀬町社会福祉協議会**

社団法人 八重瀬町社会福祉協議会
 〒901-0401 八重瀬町字東風平1318-1 TEL.098-998-4000・FAX.098-998-8999
 ホームページ: <http://www.yaeseshakyo.com/> E-mail: yaese-shakyo@woody.ocn.ne.jp
 (具志頭支所) 〒901-0512 八重瀬町字具志頭645 TEL.098-998-4677・FAX.098-998-1948
 E-mail: gusikami-shisyo@image.ocn.ne.jp

ホームページは [八重瀬町社会福祉協議会](#) [検索](#) クリック!



新年のごあいさつ

八重瀬町社会福祉協議会
 会長 神谷 榮助

具志頭城跡から望む「初日の出」

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えることと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、社会福祉協議会の事業に深いご理解と格別のご支援、ご協力を賜り、役職員一同心より御礼申し上げます。さて、少子高齢社会の到来、核家族化の進展、生活困窮者問題など福祉ニーズも多種多様化しており、従来からの福祉施策や制度等による対応だけでは解決に至らない福祉課題や地域課題がますます広がっています。

そうした中で、住み慣れた地域で安心、安全に暮らしていくためには、介護保険や障害者総合支援など公的な制度の充実と地域住民を主体とした地域福祉活動やNPO・ボランティアとの連携による地域の支え合い体制の構築が重要です。

社会福祉協議会では、多様化が進む個々のニーズや、地域の課題に積極的に関わり、各種福祉制度や福祉サービスだけではなく、地域をひとつの社会資源とする住民同士の支え合いや、助け合いの中から地域住民自ら課題を解決していく力「地域力」の向上を推進してまいります。

「だれもが安心して暮らすことのできる福祉のまち」を構築するには区長・自治会長、民生委員・児童委員、各種ボランティア並びに関係機関や団体との合意形成が必要でありその機運を高める役割を担うのが社会福祉協議会の使命と考えております。

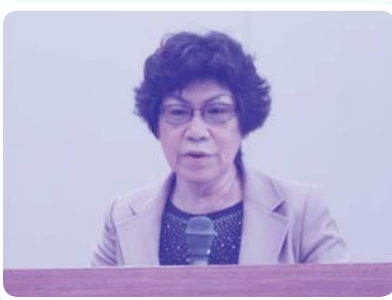
本年も町当局と連携を密にしながら、地域に根差した活動に取り組んでまいりますので更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成二十七年の年頭に際し、新しい年が皆々様にとりまして明るく、幸多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

役員(理事・監事)、評議員並びに職員研修会を開催 ～生活困窮者支援と社協の果たす役割を考える～



熱心に聞き入る参加者



講師 幸地啓子氏



講師 久根次薫氏

本会(神谷榮助会長)では、去る11月27日(木)町社会福祉会館にて「平成26年度社協役員(理事・監事)、評議員並びに職員研修会」を開催しました。当日は39名の参加があり講師に久根次薫氏(沖縄県社協地域福祉部長)と幸地啓子氏(EY税理士法人沖繩事務所長)を招き講演を中心とした研修となりました。

講師の久根次氏からは平成27年4月から施行される「生活困窮者自立支援制度」に向けて市町村社協(理事、監事、評議員、職員)に期待すること」そして幸地氏からは新会計(平成27年4月より移行)の特徴、さらに、これまで税理士として県内市町村社協に指導、助言してきた立場から「社協が果たす役割」と題してご教示をいただきました。

事務局より

平成27年4月より生活困窮者自立支援法が施行されます。この法律は生活保護に至る前の生活困窮者に対し様々な支援を行い自立促進を図ることを目的としております。日頃から住民の生活にかかわりをもつ社協に対して大きな役割が期待されています。今後も役職員一体となり社会福祉課との連携を密にして住民福祉の向上に邁進してまいります。

また、平成27年4月よりすべての社会福祉法人で新会計への移行が義務付けられます。これは会計ルールの一元化と法人全体の財務状況を明らかにし、経営分析が可能になるというメリットがあります。社協は役場からの補助金、受託金、住民からの赤い羽根共同募金、会費、寄付金等で運営しており適切な予算執行の責務があります。4月からの新会計にスムーズに移行できるよう職員間での勉強会等を重ねてまいります。

新理事紹介

左記の方が新しく理事に就任致しました。

理事は、社協の役員として位置づけられています。また、執行機関であり、業務の決定権をもっています。評議員会において、地域福祉圏代表や社会福祉関係団体の代表、ボランティア活動の実践者、民生児童委員、議会代表、行政職員等から選任することになっています。正副会長含め9名で、任期は2年です。



久保正雄

任期 平成26年5月28日から平成27年8月31日まで



中村 司

任期 平成26年11月27日から平成27年8月31日まで

八重瀬町社会福祉協議会職員募集

職種・人員/主事・1名

応募資格

- ①昭和45年4月2日から昭和60年4月1日までに生まれた者
- ②日本商工会議所簿記検定2級以上資格取得者で社会福祉関連施設又は、社会福祉関連事業所等で3年以上の実務経験がある者
- ③八重瀬町在住の者又は本籍を有する者

試験日

- 第1次試験(小論文)
平成27年2月21日(土) 9:30~11:30
- 第2次試験(面接試験)
平成27年3月7日(土) 9:30~

試験会場

八重瀬町社会福祉会館

提出書類

- 受験申込書(本会窓口で配布)
- 日本商工会議所簿記検定2級以上の合格証書の写し
- 履歴書(写真貼付)

社会福祉法人 八重瀬町社会福祉協議会
 (八重瀬町社会福祉会館内)
 八重瀬町字東風平1318番地1
 電話998-4000

応募期間

2月2日(月)~2月16日(月) 土・日を除く、8:30~17:15まで



押し花入門教室がスタート

本会では去る11月20日(木)に「平成26年度 押し花入門教室」を八重瀬町具志頭老人福祉センターでスタートさせました。障がいのある方を対象にした本教室は平成26年11月20日(木)から平成27年1月15日(木)の期間、全4回(第1、第3木曜日)で開催します。

講師に垣花鳳恵(かきのはなたかえ)先生をお願いし、押し花でのしおり、クリスマス用はがき、ワイングラス型スタンド、来年の干支色紙を完成させる予定です。

事務局より

本事業は、障がいのある方に集う場を提供することで、趣味の域を広げ、積極的な社会参加を目的に実施しており役場から予算をいただいております。

今回の押し花について調べてみますと、16世紀ごろから始められており歴史も長く、近年ではその技術も大きく進歩しているということでした。日々忙しい毎日を過ごしている現代人にとって押し花教室は心を癒す有意義な時間となるはずです。完成した作品は後日作品展を予定しています。



社協会員に感謝「応急手当講習会」 ～社協特別会員加入の企業向け～



本会では去る10月24日(金)、28日(火)の両日にわたり平成26年度社協特別会員「応急手当講習会」を開催しました。今回の講習会は社協の特別会員として加入していただいている事業所等を対象に初めての試みでしたが、2日間で26名の参加がありました。当日は本会の賛助会員でもある島尻消防清掃組合から4名の職員を派遣していただき、応急手当(AED操作)、けがの手当て、止血等の内容で3時間のコースを終りました。参加者からは「貴重な体験ができた。」「定期的に何度も受けていきたい。」「職場に持ち帰り弊社でも取り入れていきたい。」「などの感想がありました。」

事務局より

社協が推進する地域福祉活動に積極的にご協力いただいている社協会員の皆様から感謝申し上げます。何か恩返しはできないものかと考えていましたが、今回、特別会員を対象に応急手当講習会を企画実施しました。これを機に緊急時における対応の仕方を学んでもらい職場や家庭で活用していただければ幸いです。※受講者には島尻消防清掃組合より修了証が交付されます。

下記のとおり賛助会員、特別会員へのご加入がありましたので追加掲載します。

(※平成26年10月2日発行のやえせ社協だより第31号にも会員加入状況を掲載してありますのであわせてご確認ください。)

加入事業所名	納付額	会費の種類
(株)三大土木産業	10,000円	特別会費
社協理事、評議員	18,000円	賛助会員

新城で親子防災教室

～住民同士のつながりを大切に～



本会では去る10月26日(日)に字新城公民館において、親子で防災について考えようをテーマに「平成26年度親子防災教室」を開催しました。台風の影響で2週間延期して開催した本教室は、諸行事も重なり27名の参加となりました。当日は「災害に強い地域を目指して」と題して本会職員より自然災害の種類や近年沖縄で発生した地震を例にあげながら、家具の固定など日頃からの備えの大切さを強調しました。その後、講師の金城宜嗣氏(日本ボーイスカウト沖縄県連盟)から火のおこし方、身近にあるものでの担架づくり、応急手当などの指導、実技をしてもらい親子で防災について考える一日となりました。

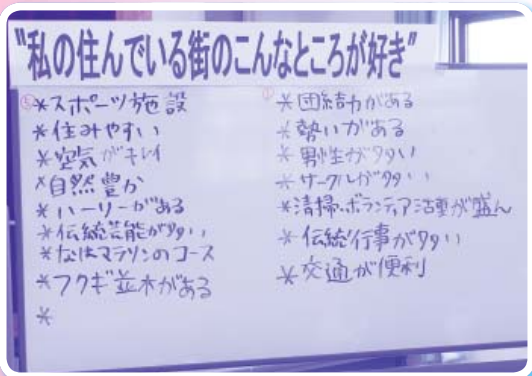
事務局より

毎回、八重瀬町赤十字奉仕団には避難訓練や防災教室で非常時の炊き出しを担当していただきお礼申し上げます。

東日本大震災では、住民同士のつながり、すなわち「絆」の大切さをあらためて見直すきっかけとなりました。本会の業務は住民の生活に密着することが多くケースによっては近隣の方の理解や支援を必要とすることもあります。社協では誰もが住みよいまちを築くために防災を通して自助(自分の身は自分で守る)、共助(近隣の住民で助けあう)、公助(行政、消防、自衛隊等)の意義と役割を促していきたいと思います。



沖縄県かりゆし長寿大学校卒業生&在校生(八重瀬町出身) ボランティア・地域活動交流会を開催しました。



本会では去る12月5日(金)に八重瀬町出身者で沖縄県かりゆし長寿大学校卒業生(57名中15名参加)と現在長寿大学校に通っている在校生(8名中5名参加)を対象にボランティア・地域活動交流会を開催いたしました。今回は、沖縄県社協いきいき長寿センターからの提案で実現したもので、当日は本会の配食サービスボランティア25名も加わり合計45名の参加者となりました。交流会では、いきいき長寿センターの進行のもと「わたあ町を良くしようよ」をテーマにワークショップが行われました。

まず、「私の住んでいる町のこんなところが好き」に対して「自然が豊か」「伝統芸能が多い」「団結力がある」等の回答。次に「私の住んでいる町のこんなところが気になる」では「隣近所の付き合いが減っている」「大きな図書館が欲しい」「子どもの夜間外出が増えている」等の意見がありました。

上記のことを踏まえて、「今、取り組めるボランティア活動は、あいさつ運動である。」ということ意見が一致し閉会となりました。

事務局より
 沖縄県かりゆし長寿大学校では、平成26年3月までに2851名の卒業生を輩出しています。講義内容かつ講師陣は大変素晴らしい市町村では取り組むことができないほど充実しています。特筆すべきは学生募集要項の目的に記載されている「生きがいのある生活基盤の確立と健康の保持・増進に役立てるとともに、地域活動の担い手を養成する」という文言です。社協では「地域力」の強化を目標に事業を推進しており、かりゆし長寿大学校卒業生には大きな期待を寄せていますので更なるご協力をお願いいたします。

沖縄県社協いきいき長寿センター並びに南部地区市町村社協ボランティア担当の皆さんありがとうございました。

意見発表大会・カラオケ大会の開催

八重瀬町老人クラブ連合会（新城安盛会長）では去る11月26日（水）午後2時より町社会福祉会館にて「平成26年度意見発表大会・カラオケ大会」を開催いたしました。

前半では、「区画整理後の老人クラブ活動」と題して知念秀雄氏（字屋宜原老人クラブ会長）が意見発表を行いました。

後半は、字から選出された17名の方によるカラオケ大会となりました。

結果は次のとおり

意見発表大会の部

最優秀賞：知念秀雄氏（字屋宜原）

演題「区画整理後の老人クラブ活動」

カラオケ大会の部

優勝：兼城武美氏（字安里）

準優勝：宮城秀勝氏（字世名城）

3位：金城正和氏（字港川）

事務局より

近年、人口や世帯が増え発展が著しい字屋宜原、一方では他市町村から若い世代が移り住み、昔ながらの住民同士のかかわりが少なくなっているという現実。それに付随してくるコミュニケーション機能の低下への懸念。その状況下において老人クラブ活動そのものが字を支えているという内容の発表でした。

社協では、地域福祉の推進役として老人クラブの皆さんを頼って様々なお願いをしております。更なるご協力をお願い申し上げます。

「プロ顔負けの歌唱力は圧巻でした。認知症の原因の一つに「孤独」があります。歌（カラオケ）を趣味とする方は人と交わることが多くなり、外出のチャンスもあるでしょう。人と会うことが増えれば、服装やオシャシにも気を使い話も豊富になるでしょう。なんととっても気分転換になります。日タリラックスして生活することが心身ともに健康の秘訣だと思います。」



施設見学を行いました。

八重瀬町身体障害者協会（神谷信吉会長）では去る11月26日（水）午前10時より八重瀬町字仲座に落成した沖縄県身体障害者福祉協会「太希おきなわ」の施設見学を行いました。当日は20名の会員と4名の職員が参加しました。職員から施設の概要説明を受けた後1時間にわたって建物内の見学を行いました。

事務局より

障がい者を支援する制度やサービスは、めまぐるしく変化しており現場の整備が間に合わないのが実情です。今できることは、当事者には多くの情報を提供し、自分に合った、サービスを見つけてもらうことです。

これからの障害者福祉は、多様な福祉サービスが利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫し、地域社会において個人の尊厳を保持し、自立した生活を営むことができるよう支援していくことが求められます。



寄 付

ご芳志誠にありがとうございます。この寄付金は、町内の福祉事業のため有効に活用させていただきます。紙面をかりて衷心より厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 9 月 29 日～12 月 9 日 単位：円

月 日	寄付者氏名 (敬省略)	住 所	金 額	備 考
9 月 29 日	神谷清吉	字小城	20,000	米寿祝いの記念として
10 月 8 日	外間ミヨ	字世名城	30,000	故夫 外間英保様の香典返しとして
10 月 14 日	知念春子	字世名城	50,000	故夫 知念亀助様の香典返しとして
10 月 17 日	諸見里真常	字具志頭	50,000	故姉 根川トヨ様の香典返しとして
10 月 20 日	金城ヨシ	字東風平	50,000	カジマヤー祝いの記念として
11 月 11 日	長田光	字東風平	50,000	故息子 長田好宣様の香典返しとして
11 月 13 日	平仲清正	字後原	30,000	故母 平仲静様の香典返しとして
11 月 13 日	金城繁	字小城	30,000	故母 金城信子様の香典返しとして
11 月 14 日	宮平春	字友寄	30,000	100 歳祝いの記念
11 月 17 日	金城さく	字東風平	200,000	故夫 金城哲雄様の香典返しとして
11 月 18 日	宜保盛幸	字具志頭	100,000	故母 宜保ヒデ様の香典返しとして
11 月 25 日	玉栄初乃	字新城	50,000	故母 住田秀様の香典返しとして
11 月 27 日	沖縄県個人タクシー事業協同組合 八重瀬支部		30,000	一般寄付として
12 月 1 日	上地芳子	字具志頭	100,000	故夫 上地幸清様の香典返しとして
12 月 3 日	長田由子	字東風平	10,000	一般寄付として
12 月 8 日	大嶺	字玻名城	225,292	故 大嶺敏夫様、敏一様の香典返しとして
12 月 9 日	真志取絹子	字新城	50,000	故夫 真志取正満様の香典返しとして
合 計			1,105,292	



町社会福祉会館並びに町保健センターは毎日多くの住民が利用します。利用者の年齢層も乳幼児からお年寄り、そして障がいのある方など様々です。そんな利用者を癒してくれているのが駐車場に咲いている花々です。美しく咲いている花は四季を感じさせ日々の慌ただしさを忘れさせてくれます。実は誇らしげに咲いている花を手入れ、管理しているのがボランティアの方々です。職員が休みである土曜日や日曜日に人知れず活動を続けてくれています。神里富次さん、石原清・ヨシ子夫妻、大城清子さんいつもありがとうございます。

ボランティアに感謝
人知れず社会福祉会館駐車場に花を

